

小頭岳

平成 23 年 1 月 28 日 (金)
新合地区振興会
振興会便り
文責: 佐々木 元
NO. 16

謹賀新年



☆小学校統廃合時期は教育委員会で「平成 28 年度までに」と示されていましたが、統合を四校同じ時期がよいのではないかと動きがあり P T A・同窓会・振興会で話し合い 25 年度統合で推進協議会に望もうと決めました。

※長寿の秘訣はお休みしました

がんばってます⑨ 上津留区鷹の巣「吉田憲之さん」 〇● 私の趣味は「囲碁」です 〇●

一口に趣味といっても、種々多くあり、又その範囲も広く、人各々の考えもあり、的確な趣味の線引きはなかなか難しい感じがする。小生は、二十五歳の頃、次のことから「趣味は『囲碁』にしよう。」と決めた。1. 年齢を重ねても健康な限り、何時までも楽しめる。2. お金がかからない。相手は一人である。3. 危険を伴うことなく、たとえ死んでも畳の上である。



一旦決めたら誰でも少しでも上達したい。勝ちたい。と思うのも人の常だろう。小生も囲碁上達過程では専門書籍購入、碁席代、仲間同志の親睦囲碁大会など常に熱心に努力・精進した。

昭和四十年頃、小生の師である元肥後本因坊の故黒田静男氏（楠浦町出身）に師事し、一年契約で週二回、指導対局をいただいた。その指導方針は、基本的囲碁感覚を身に覚えさせることが主であったが、要点として次の二点を強調された。1. 自分の碁を打て。定石は覚えて忘れろ。2. 頭の柔軟性（通センボだけは絶対にするな。）この一年間のいわば基礎対局が現在の小生の棋力向上に大きく影響したと思っている。

ここで、折角の機会なので、老後の趣味の考え方の一つとして、次の内容を紹介したい。これは、約二十年前、熊本での碁会所で老婦人と対局したことである。これはそのときの会話。小生：幾つの時、碁を覚えましたが？ 婦人：私は遅く、七十歳くらいの時からで、現在七年がたちました。小生：誰に習ったのですか？ 婦人：高校二年生の孫娘に習いました。小生：囲碁は面白いのですか？ 婦人：本当にこんなに面白いとは思いませんでした。小生：現在の棋力は？ 婦人：五級くらいだと思います。私は現在この碁会所に通っておりますが、対局しているときは雑念を忘れさせ、また、心の癒しとして非常に楽しんで打っております。小生：失礼かと存じますが、常連の碁仇に勝つというお気持ちは？ 婦人：私の碁に対する気持ちは前述のとおりで、上手・下手とか、勝ち負けとか一切意に介しません。楽しい一刻を碁によって皆様と過ごすことが囲碁に対する私のすべてです。と、言われた。小生はその時もそうだったが、現在も今なお思い出すたびに、幅広く、奥深い「趣味」を理解するうえでよい経験になったと思っている。

現在、週の中数回、町内などを主に指導対局を続けておりますが、対局者の棋力向上に少しでも手助けすることが出来れば幸甚の至りである。囲碁を趣味として、八十有余年、幸い健康に恵まれ、老後の楽しみとして今後とも実りある人生を生き続けたいと思っている次第である。（吉田 憲之氏 記）

憲之さんは日本将棋六段、八十一歳。若い頃は野球、ソフトボール、相撲、柔道等々スポーツマンでもあった。囲碁大会における優勝の思い出は数々ある中でも牛深・河浦対抗戦で二年連続全勝優勝したことだという。また、宮野河内の森田信吉さんと大蓮寺で行われた三日間食事以外は休みなしの対局も忘れられないという。天草の三傑と言われた森田繁信さんとの対局等々聞いていると囲碁の思い出が尽きることがなかった。

専門用語に「つけすじ」というのがあるが、実践し応用するのに三十五年かかったという。本渡の碁会所にも行っておられるが、「吉田さんの気力は天草一だ。」といわれているとのこと。このようなことから憲之さんの卓越した囲碁の技術と人間性はその情熱・努力・信念・感謝が囲碁となっていることを強く感じた。

奥さんの勝子さん（七十五歳）は囲碁には全く興味が無いが、家を改築する時、囲碁部屋を造ることに快諾してくれたし、客への対応も笑顔を絶やさず、妻のおかげで今があると憲之さんは奥さんへの感謝でしめくられた。

古里との強い絆を生きる支えに ～近畿河浦会～

1月9日（日）池田市議・大平支所長さんら9名で近畿河浦会に出席した。

当日は河浦音頭が流れる会場に準備された席が足りない程の出席者で全体で約130名だった。新合出身者は大塚為海さん・金山多恵子さん（旧姓田中）ら13名の参加。出席されていた平田修さん（近畿新合会世話人）によれば別に「新合会」をしているのでこの会への出席は例年少ないとのこと。（昨年の新合会約40名出席）

池田武司会長の挨拶のあと、池田市議と大平支所長から河浦の現状報告やふるさと応援寄付金のお礼、今後の支援のお願いがあった。特に河浦高校野球部の活躍の報告では場内で喜びのどよめきがあった。私は「ふるさと宅配便」の取り組みへのお礼と更なるご支援をお願いした。

懇親会は二次会（新合）まで続きましたが話は小学校や中学校の思い出、頭岳登山や野球・ソフトボールの話、田畑の仕事、同級生の事等、古里の郷愁（思い出）に花が咲いた。

又、子供の頃のそれらが支えになって頑張ってきたと石川啄木の「ふるさとの山に向ひていふことなし、ふるさとの山はありがたきかな」を思い出しながらのひと時でした。

「ふるさと宅配便」については米がとて美味い。「ふるさとかけ橋架け干し米」というネームにしたらどうかと、後から芋とか、あんぼしなど2つ3つ入れたらどうか。少々高くなってもいい。等々に関心の高さを強く感じた。古里との絆を支えにこれからも頑張っていくという気持ちがひしひしと伝わり私たち住郷の者も新合を一層より発展させるために共に力を合わせていかなければという思いを強くし大阪を後にした。



第46回 近畿河浦会総会&懇親会 来賓挨拶 大阪(千日前・味園) 平成23年1月9日

『道路工夫物語』 (9)

～ みんなに支えられて ～

道路上での仕事なのでよく通行する人に会う。そのたびに「おはようございます。」「こんにちは。」「こんばんは。」等々挨拶を心がけていて、自分でも挨拶をよくする方だと思っていた。ところが、道路工夫になりたての頃(昭和32～33年)あるお婆さんから「あなたは朝晩の挨拶をよくするが、あと一言つけ加えなばつまらん。」と注意されたという。それからはその注意を心に止めて「おはようございます。」の後に「今日は良い天気ですね。」「こんばんは、今日は孫さんは?」とか一言つけ加え会話になるよう心がけたという。



それが一層近親感を呼び、周りの人と親密になったと振り返られる。お話を聞いている間中、よく「まわりの人に育てられて感謝」とか「多くの人の恩を受けて仕事が出来た、ありがたかった。」等々地域や周囲の人に育てられたとの感謝の言葉が再三でてきた。更に、今自分達の若い頃のようにいろいろと注意してくれる先輩や大人が少なくなった。若者をみんなで育てていこうという気持ちがうすれてきたと寂しがっておられた。

次回は 「ありがたいない」勲章

～ 報 告 ～

☆「年頭のあいさつ」は同窓会会報『頭岳』をご覧ください。

○元日登山・新年祝賀式・町内駅伝大会=悪天候のため中止

○1月23日 総合学習 閉講式
講師：迦葉寺 葛西啓二住職 ・22名参加

○1月20日 ふるさと宅配便 5回目発送

○1月2日 新合地区成人講座
☆祝成人！ おめでとうございます☆
石原翼さん・吉田圭祐さん・尾中駿介さん・吉田恵さん・井上香奈さん・石元栞さん・木下ゆとりさん・松川利沙さん（旧姓：平野）・山下樹里さん の9名



※玄派な門松に感謝！～今年も市平地区「なんかつゆう会」(会長 本多恵二さん)で作って頂きました。